

保護者からの手紙（第5回－7）

おのみち100キロ徒歩のたびに、娘を参加させていただき、大変お世話になりました。大学生、社会人ボランティアの皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。

暑い、暑い5日間を歩きとおした娘に大変感動しました。遅れてないだろうか、友達ができなくてさびしい思いをしてないか、食事はたべれてるだろうか、などなど毎日、心配をしておりました。ゴールした娘の表情を見たとき、そんな心配をした自分がばかしくなりました。今までに見たことのない、生き生きして、笑顔いっぱいのもとても満足した顔でした。本当に驚きました。子供は、自分で生きる力をもっているんだと、気付かされた瞬間でした。また、どの子もゴールのときの表情がとてもいいのです。疲れきった顔はありませんでした。

帰宅中、いつもは口数の少ない娘は、しゃべり通してでした。とても楽しそうに5日間の事を話してくれました。すぐ、班の仲間と仲良くなれたこと、食事もおいしかったこと、暑かったこと、大きな声で歩調コールができるようになったこと…娘の成長が手に取るように感じられ、親としてとてもうれしい気持ちでいっぱいになりました。

5日間、寝食をともにした、リーダーさんたちには、感謝の気持ちでいっぱいです。リーダーさんのパワーに引っ張られ、100キロ完歩できたと思います。子供たちに寄り添い、励まし続けてくれた大学生ボランティアの一生懸命な姿に感動しました。

おの100から1週間が過ぎました。帰った翌日から、元気いっぱいです。大きな声で挨拶ができるようになったこと、お手伝いを率先してしてくれるようになったこと、少し兄弟に優しく思いやりの言葉がでるようになったこと、など。いろんなことができるようになりました。「かわいい子には旅をさせよ」といいますが、ホントその通りです。私自身今までの過保護、過干渉に反省し、この旅をきっかけに親子ともに成長できたのではないかと思います。本当にありがとうございました。